

## 第25 回研究集会 プログラム

第25 回研究集会への参加を希望される方は、以下のZoom ミーティング事前登録フォームよりお申し込みください。

自動返信メールでミーティング参加用URL をお送りします。

※フォームへのお申込み後、数時間経過しても返信メールがお手元に届かない場合は事務局までご相談ください。

.....

あなたは Zoom ミーティングに招待されました。

開催時刻：2022 年 7 月 16 日 12:45 PM 大阪、札幌、東京

このミーティングに事前登録する：

<https://zoom.us/meeting/register/tJEtdeyqqz4oE9zPXKjwHTIdWN-n6BkvzFox>

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

.....

開場 12：45

開会の辞 13：00

研究発表(1) 13：05～14：05

13:05～13:35 新井田ひなの(コロンビア大学社会文化人類学部修士課程 2 年)

「Dance of Japanese diplomacy: Aesthetical analysis of Yosakoi dance's global diffusion」

13:35～14:05 田井みのり(東京都立大学大学院博士課程後期 2 年)

「現代日本の葬儀における音楽伴奏実践にみるサナトロジー—〈音楽葬〉を事例として」

小休憩 14:05～14：15

研究発表(2) 14：15～15：45

14:15～14:45 小宮理奈(東京都立大学大学院博士課程後期 1 年)

「誰の声を拾うのか：難民研究における声の多様性」

14:45～15:15 大島崇彰(東京都立大学大学院博士課程後期 2 年)

「ローカルを越えて—オセアニアの嗜好品カヴァの生産・消費の変容」

15:15～15:45 松田 俊介(東北芸術工科大学芸術学部講師)

「民俗行事の継承をめぐる他者性の構図—山形県上山市のコロナ禍における加勢鳥の実施を事例として—」

休憩 15：45～16：00

講演 16：00～18：00

門田岳久氏(立教大学 観光学部交流文化学科 准教授)

「コンバージェンス、レジスタンス、フォークロア：内在的批判をめぐって」

現代の人類学は「世界」の複数性を様々な民族誌的データから示すことで、グローバルに広がる近代/西洋中心の視点を批判し、「別の見方」を提示する実践的な役割をますます強めています。その際、「別の見方」として提示されるのは「遠い世界」のケースばかりではありではありません。しばしばそこでフォークロア的な素材が応用されるのは、いわば内在的な視点によって私たちの日常を相対化していこうとする企図があるからです。しかしフォークロア的な素材を持ち出して日常批判を行う手法は、ともすればグラスルーツ(草の根)の理想化や過去の本質化に繋がり、思わぬ足下をすくわれることにもなります。また近年はデジタルプラットフォームにおける参加型文化(コンバージェンスカルチャー)が増大し、それが陰謀論と結びつくなど、グラスルーツの自律的な世界の捉え方にも再考が迫られています。こうした状況を踏まえ、内在的な視点で「私たち」の日常に批判的な検討を加えるにはいかなる手法がありうるでしょうか。この報告では発表者が構想する、レジスタンスのフォークロアの観点からその入口に立ちたいと思います。

共催：早稲田大学文学研究科文化人類学コース

※今年度は懇親会を開催しません